

## 8. 社会連携・社会貢献

### 中期目標

- (1) 医療系の大学として、医療・健康・保健面における社会連携・社会貢献を積極的に推進する。
- (2) 本学の特色を活かした国際交流事業を推進し、実践を重視し国際的通用性の高い教育・研究の充実・発展を図るとともに、その成果の社会への還元を図る。

### 中期計画

- 【25】 医療系の大学として、教育研究の充実・発展を図るとともに医療・健康・保健面における社会貢献を積極的に推進するため、「社会連携・協力に関する基本方針」に基づき、地域との連携・協力を組織的に推進する。
- ・ 医療・健康・保健面における教育研究の成果を社会に還元する趣旨から、大学が所在する品川区等との共催・後援による公開講座を開催する。また、本学の教育研究活動を幅広く社会一般に理解していただくため、業務に支障を生じない範囲で、地方自治体及び医療関係機関等からの要請に応じて、医療保健をテーマとする講演会・セミナー等への教員の派遣を推進する。
  - ・ 研究科における研究への取り組み及び最新の研究課題・研究成果等を紹介するため、大学院主催による公開講座等の充実を図る。
  - ・ また、学部及び研究科における研究成果等については、本学の紀要及び研究成果報告書等を定期的に発刊するとともにウェブサイト等に公表する。
  - ・ 医療系の大学で学ぶ学生として社会貢献・社会活動に関する意識の涵養を図り学修意欲の向上を図るとともに、地域との交流を深めるため、学生のボランティア活動への積極的な参加を奨励する。

### 取組状況及び課題等

- 1) 本学は、教育目標及び使命に基づき、医療系の大学として教育・研究の充実・発展を図るとともに、医療・健康・保健面での社会貢献を積極的に推進し、地域との連携・協力を組織的に推進するため、「社会連携・協力に関する基本方針」を定め施行しております(23.12.7 大学経営会議審議・承認)。
  - ①平成 26 年度には、大学は、地域を指向した教育研究等を進め地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図ることが求められていることから、「社会連携・協力に関する基本方針」の中にこれらの視点を踏まえ社会の活性化に資するという役割を明記することとし、「社会連携・協力に関する基本方針」に新たに次の項目を加えております。

「6、本学は、医療・健康・保健面において地域を指向した教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図る等、医療系の大学として社会の活性化に資する役割を担うこととする。」

今後引き続き地域を指向した教育研究等を進め地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図ってまいります(資料 40)。
  - ②また、今後も「社会連携・協力に関する基本方針」に基づき、医療系の大学として各キャンパスが所在する地域との連携協力により公開講座を開催する等、本学の特色ある教育研究活動を積極的に発信してまいります。

2) 「社会連携・協力に関する基本方針」に基づき、医療系の大学として医療・健康・保健面における教育研究の成果を社会に還元し紹介するため、平成 28 年度においては、前年度に引き続き大学が所在する品川区等との共催・後援による公開講座及び大学院主催による公開講座を次のとおり開催いたしました。いずれの公開講座においても参加後のアンケートにおいては「大変参考になった」「継続して開催してもらいたい」等公開講座に関して高い評価を得ており、今後も公開講座を拡充してまいります(資料 11、資料 40、資料 41、資料 42)。

#### 公開講座実施状況

##### <大学主催の公開講座>

共 催	品川区 (共催)	世田谷区立特別養護 老人ホーム 上北沢ホーム (共催)
実施年月日	28. 6. 11(土)	28. 10. 23(日)
実施場所	こみゆにていぶらざ八潮	世田谷区立特別養護 老人ホーム 上北沢ホーム
実施時間	10:00~12:00	10:00~12:00
参加者数	31名	10名
講座名	「知って得する食品衛生」	「この冬気をつけたい 感染症」
講師	医療保健学部医療栄養学科 講師 大道 公秀	東が丘・立川看護学部 講師 松本 和史

共 催	品川区 (共催)	目黒区 (共催)
実施年月日	28. 11. 20(日)	28. 12. 10(土)
実施場所	五反田キャンパス	国立病院機構キャンパス
実施時間	10:00~12:00	10:00~12:00
参加者数	60名	63名
講座名	「逆境を乗り越える力、 折れない心(レジリエンス)を はぐくむ 実践編」	「最期まで自分らしく生きる ために」
講師	医療保健学部看護学科 准教授 秋山 美紀	医療保健学部看護学科 准教授 櫻井 智穂子

<大学院主催の公開講座>

主 催	医療保健学研究科	看護学研究科	看護学研究科
実施年月日	28. 7. 2(土)	26. 10. 23(木)	26. 11. 7(金)
実施場所	時事通信ホール	国立病院機構キャンパス	国立病院機構キャンパス
実施時間	12:30~16:00	18:00~19:50	18:00~19:30
参加者数	119名	59名	73名
講座名	「感染制御と栄養の コラボレーション」	「オバマケア以降の NP の活動」	「アメリカの自律した 看護師は どのように育つか」
講師	東京医科大学 微生物学分野教授、 東京大学医学部附属病院 手術部准教授 等	米国スタンフォード大学 付属病院 高度実践センター部長 Garrett K. Chan	ハワイ大学 准教授 Maureen, Shannon

2) 大学が所在する自治体との連携協力について

①五反田キャンパスが所在する品川区が企画する大学連携講座には本学も毎年度参加して公開講座を実施しておりますが、品川区では同区内に所在する7大学等と相互に協力して公開講座等の広報活動を実施することにより生涯学習活動の活性化を図ることとしております。

その取組の一環として同区においては区内の7大学等が開催する公開講座の周知を図るため、各大学等の公開講座のチラシ・ポスター等を同区から7大学等に一齐にメールで転送しております。本学においては平成26年度からこの取組に参加しており区内の大学等が開催する公開講座の情報をデスクネットのメールにより教職員にお知らせするとともにポスター等を掲示するなど学内に周知を図っております。

品川区においては、生涯学習を推進するため区民大学を開催する等、区内大学との連携強化を図ることとしていることから、本学においても同区との連携協力を積極的に推進してまいります。

なお、医療・健康・保健面で品川区との連携協力を推進するため、品川区にある医療系の大学として防災等を含めた包括協定の締結に向けて協議を進めております。

平成28年度から、品川区の産後ケア事業を受託・運営し、また、健康づくり事業での協働を開始しました。評価を含めた企画案を提案・実施することにより、品川区から連携の利点を評価いただいております。2年前期の「地域保健活動演習」では介護予防事業をフィールドとしていますが、より多くの科目で地域活動との連携を図っていきます。教員が運営に関わる事業への学生の参画を企画し、実習・演習を通して、教育の場としての活用を計画していきたいと考えております。

②世田谷キャンパスが所在する世田谷区においては、世田谷区基本計画に掲げる「世田谷の文化の創造と知のネットワークづくり」の一環として、平成26年度から区に所在する13大学における地域貢献等の取組状況に関する懇談会を開催し意見交換等を行っております。平成27年度においては、世田谷区から区内13大学に提案があった、子ども・若者への支援、安全・安心のまちづくり、地域の活性化などのプロジェクト案を踏まえて世田谷区との連携・協力に関する意見交換等を行いました。平成28年度においても、「世田谷区長と学長との懇談会」(28.10.27)において「大学と区との連携に関する取組み等の経過報告」及び「国際化プロジェクトの取組み」をテーマとして意見交換が行われております。

今後も世田谷区に所在する医療系の大学として地域の方々の健康に貢献できるツール・成果を紹介するなどの取組を積極的に行ってまいります。

③国立病院機構キャンパス(東京都目黒区)にある東が丘・立川看護学部看護学科においては、学生の課外活動の一環として学生が同区目黒消防団に多数加入しております(平成 28 年度 150 名)。

目黒消防団においては我が街を災害から守るという使命感のもと、地域の防災リーダーとして幅広い活動を行っておりますが、同学部学生の消防操法大会・総合防災訓練等の活動ぶりは目黒区及び目黒消防団から高い評価を得ております。

平成 28 年度においては、全学的な取組の一貫として目黒区との共催により初めて公開講座を開催することができました。また目黒区後援で地元自治会の協力の下に旧地域名称を冠した「よしくぼ保健室」(まちの保健室)を学生・教員により開催しました。高齢者を中心とした地域の方々を対象に健康相談や健康測定等を行い参加者からはたいへん喜ばれました。地域の方々を通して、学生にとっては貴重な体験とともに学びの機会ともなりました。今後も継続して取り組んでまいります。同学部においては、医療・健康・保健面における社会貢献を積極的に推進し、地域との連携協力を組織的に推進するため、今後目黒区と社会連携に関する協定を締結する方向で引き続き相談・検討を進めております。

④東が丘・立川看護学部看護学科においては平成 26 年 4 月から入学定員を 100 名から 200 名に改訂するとともに、臨床看護学コースと災害看護学コースの 2 コース制を設置いたしました。

災害看護学コースは国立病院機構災害医療センター(東京都立川市)との連携協力により災害・防災にも適切に対処できる看護師の育成を図ることとしており、平成 28 年度から立川キャンパスを新たに設置いたしました。

平成 28 年度から災害看護学コースの 3 年次生が災害医療センターの敷地内にある校舎等において履修しておりますが、平成 29 年度以降は同コース 2 年次生から同キャンパスで履修することから立川市にある医療系大学として地域貢献を積極的に進めるため、今後、立川市との共催により本学の教育研究活動の成果を還元する公開講座を開催する等、同市との連携協力を推進してまいります。

2) 本学の教育研究活動を幅広く社会一般に理解していただくため、平成 28 年度においても業務に支障を生じない範囲で、地方自治体及び医療関係機関等からの要請に応じて、医療保健をテーマとする講演会・セミナー等への教員の派遣を行っております。

3) 東京医療保健大学紀要等について

①本学専任教員の教育研究活動の振興と円滑化を促しその成果の発表のため、平成 18 年度から毎年度 1 回「東京医療保健大学紀要」を発刊しております。平成 28 年度には「東京医療保健大学紀要第 11 巻第 1 号 2015 年」を発刊いたしました。紀要に掲載する原著論文及び研究報告については学内で投稿募集を行い、紀要委員会の審査を経た後、掲載しております。原著論文が紀要に掲載され発行されるまでは期間を要するため、原著論文の速報性を重視することから、紀要委員会において投稿の可否についての審査結果が出た後、投稿する原著論文は速やかに本学ホームページに掲載しております。

②紀要については、現在、医療保健学部教員の投稿による原著論文及び研究報告を掲載しておりますが、東が丘・立川看護学部においては、平成 22 年度の学部設置後、社会への説明責任を果たすため、学部における教育研究活動をまとめた「東が丘・立川看護学部年報」を平成 23 年度から毎年度本学ホームページに掲載しております。

4) 大学院医療保健学研究科の社会貢献に関する取り組みについて

①大学院医療保健学研究科においては、医療関連感染に関する研究成果等を発表するため、毎年度原著論文・短報等を掲載した「医療関連感染 Journal of Healthcare-Associated Infection」を年2回発刊しております。平成28年度は7月に「医療関連感染 Journal of Healthcare-Associated Infection (Vol.9No.1. July 2016)」を発刊するとともに本学ホームページにおいても公表いたしております。

②医療保健学研究科修士課程においては、保健医療機関等において5年以上感染管理に従事した経験を有する看護師を対象として感染制御実践看護師の育成を目的とした「感染制御実践看護学講座」(6ヶ月研修)(募集定員20名)を平成22年度から実施しております。この講座は厚生労働省が定める感染防止対策加算の施設基準である感染管理に関する適切な研修であると厚生労働省から認定されております(22.6.11)。

平成28年度においては、10都県から17名の受講者があり28.4.27(水)から28.11.12(土)に実施いたしました。受講者は現職の看護師を対象としていることから主として週末の土曜日や夏季期間等、大学院の集中講義の時期に合わせて講義を行うなどの工夫を行っております。

この講座については、受講者及び受講者を派遣している医療機関等から感染管理に関する専門的な知識を受講することができるかと高く評価されており、今後も引き続き講座を実施いたします。

感染制御実践看護学講座の受講者数の推移

平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
9都県	19都道府県	12都府県	11都県	14都県	10都県
13名	23名	21名	20名	23名	17名

③医療保健学研究科修士課程においては、医療関連企業等からの要請により、感染制御に関する業務に携わっている方々を対象として感染制御学に関する最新の情報や医療現場における取組状況を知ってもらい専門的知識をさらに深めていただくため、平成25年度から「感染制御学企業人支援実践講座」を開講しております。講座修了生からは「感染制御に関する最新の専門的知識を修得することができて大変有意義な講座であった」と評価されております。

平成28年度は開講を見送りましたが、平成29年度においては医療関係企業等のニーズを見据え開講を予定しております。

5) 医療・健康・保健面による社会貢献の一環として、本学では平成21年度から「養護教諭を対象とした教員免許状更新講習」を実施しております。平成28年度においては文部科学大臣の認可を得て8月8日(月)から8月10日(水)の3日間、15名の参加者を得て(募集人員20名)、本学の専任教員等を講師として「養護教諭を対象とした教員免許状更新講習」を実施いたしました。

講習終了後のアンケートにおいては、参加者15名全員が「満足した」「成果を得られた」と回答しており講習運営面についても高く評価されております。

養護教諭を対象とした教員免許状更新講習の受講者数

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
13名	12名	23名	22名	18名	15名

- 6) 医療系の大学で学ぶ学生として社会貢献・社会活動に関する意識の涵養を図り学修意欲の向上を図るため、ボランティア活動への積極的な参加を奨励しております。平成 28 年度においては、ボランティア活動を希望する学生は児童養護施設等における介助活動、高齢者・障害者への介助・支援活動、地元の行事に参加して地域との交流を深める活動、医療に関わる活動等に参加しております。ボランティア先においては、本学学生の活動は高く評価されており、今後も積極的な参加を奨励してまいります(参照：26～27 頁)。
- 7) 本学においては、「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の成功に向けて、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会からの依頼により、大学と組織委員会がそれぞれの資源を活用しオリンピック教育の推進や大会機運の醸成等、大会に向けた取り組みを進めるため相互の連携・協力体制を構築することを目的として組織委員会と協定書を締結いたしました(26. 10. 1)。平成 26 年度から学内のデスクネットにおいて教職員・学生への周知を図っており、引き続き組織委員会からの要請により教育的分野での連携・協力を図ってまいります。

#### 中期計画

- 【26】 本学の特色を活かした国際交流事業を推進し、実践を重視し国際的通用性の高い教育・研究の充実・発展を図るとともに、その成果の社会への還元を図る。
- ・「国際交流に関する基本方針」に基づき、教職員・学生に係る海外派遣・海外研修の実施を推進する。
  - ・外国からの留学生・研究生の受入れを積極的に推進する。
- 外国の医療系の大学等との国際交流協定の締結を積極的に推進し、人的交流を推進することにより、実践を重視し国際的通用性の高い教育研究の充実を図り、その成果の社会への還元を図る。

#### 取組状況及び課題等

中期計画【5】【18】参照

#### 根拠資料

- 資料 11 「大学院公開講座等実施状況 医療保健学研究科 (平成 25 年度～平成 28 年度)」
- 資料 19 「医療保健学部学生による課外活動の状況について(平成 25 年度以降の主なもの)」
- 資料 20 「東が丘・立川看護学部学生による課外活動の状況について(平成 25 年度以降の主なもの)」
- 資料 40 「「東京医療保健大学の社会連携・協力に関する基本方針」の一部改正について」
- 資料 41 「公開講座実施状況(平成 26 年度～平成 28 年度)」
- 資料 42 「大学院公開講座実施状況 看護学研究科(平成 24 年度～平成 28 年度)」

## 大学院公開講座等実施状況 医療保健学研究科（平成25年度～平成28年度）

	平成27年度 大学院公開講座	平成28年度 大学院公開講座
実施日時	27.7.4(土)12:30～16:00	28.7.2(土) 12:30～16:00
実施場所	時事通信ホール	時事通信ホール
受講料	3,000円	3,000円
講座名	「感染制御の新たな課題」	「感染制御と栄養のコラボレーション」
講座の内容	基調講演、特別講演、教育講演に続いて、感染制御学領域の大学院修了生の研究成果発表を軸に、感染制御に関わるトピックスや最新の情報について解説。	第一部で外部講師による特別講演Ⅰ、本学教員による教育講演、第二部では本学大学院修了生による研究成果報告2題発表に引き続き、外部講師により特別講演Ⅱとして感染制御と栄養の関わり等について実施。
講師	木村 哲（東京医療保健大学長・大学院医療保健学研究科長） 小林 寛伊（東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科教授） 大久保 憲（東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科教授） 東京医療保健大学大学院修了生9名	大楠 清文（東京医科大学 微生物学分野教授） 深柄 和彦（東京大学医学部附属病院手術部 准教授） 野口 玉雄（東京医療保健大学大学院医療保健学研究科 教授） 鈴木 礼子（東京医療保健大学医療保健学部 准教授） 松村 有里子（東京医療保健大学大学院医療保健学研究科 講師） 東京医療保健大学大学院修了生2名
参加者数	162名	119名
アンケート回答者数	73名(45.0%)	64名(53.8%)
講座を知った方法	大学院からの案内メール、郵送物 54% 勤務先・知人からの案内 24% 大学ホームページ 7% 雑誌の広告 5% その他 10%	大学院からの案内メール、郵送物 62% 勤務先・知人からの案内 19% 大学ホームページ 8% 雑誌の広告 3% その他 8%
公開講座の時間	ちょうど良い 90% 長い 7% 短い 3%	ちょうど良い 95% 長い 0% 短い 3% その他 2%
公開講座の内容	妥当 78% 難しい 21% もう少し専門的でも良い 1%	妥当 60% 難しい 35% もう少し専門的でも良い 3% その他 2%

	平成25年度 大学院公開講座	平成26年度 大学院公開講座
実施日時	25.7.6(土) 12:30~16:00	26.7.5(土) 12:30~16:00
実施場所	時事通信ホール	時事通信ホール
受講料	3,000円	3,000円
講座名	「感染制御 -2013年の話題-」	「感染制御のこれから」
講座の内容	感染制御学の大学院生の研究成果を軸に、感染制御に関わるトピックスや、最新の情報、感染関連法規等を解説。感染制御実践看護学講座及び感染制御学研究センター東京・大阪の紹介。	感染制御学及び周手術医療安全学の大学院生、修了生、教員の研究成果発表を軸に、感染制御に関わるトピックスや、最新の情報、課題、また病院のフェシリティマネジメントについて解説。感染制御学企業人支援実践講座修了生の発表。
講師	小林 寛伊 (東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科長) 大久保 憲 (東京医療保健大学 副学長) 菅原 えりさ (東京医療保健大学大学院 准教授) 吉田 理香 (東京医療保健大学大学院 准教授) 東京医療保健大学大学院生10名	小林 寛伊 (東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科長) 大久保 憲 (東京医療保健大学 副学長) 吉田 理香 (東京医療保健大学大学院 准教授) 東京医療保健大学大学院生4名、修了生2名 感染制御学企業人支援実践講座修了生1名
参加者数	173名	152名
アンケート回答者数	63名 (36.4%)	51名 (33.6%)
講座を知った方法	大学院からの案内メール、郵送物 49% 勤務先・知人からの案内 27% 大学ホームページ 8% 雑誌の広告 6% その他 10%	大学院からの案内メール、郵送物 71% 勤務先・知人からの案内 9% 大学ホームページ 4% 雑誌の広告 11% その他 5%
公開講座の時間	ちょうど良い 92% 長い 4% 短い 4%	ちょうど良い 94% 長い 2% 短い 2% その他 2%
公開講座の内容	妥当 87% 難しい 9% もう少し専門的でも良い 4%	妥当 86% 難しい 4% もう少し専門的でも良い 8% その他 2%

26.7.16

大学経営会議

「東京医療保健大学の社会連携・協力に関する基本方針」の  
一部改正について

1. 趣旨・概要

本学は、教育目標及び使命に基づき、医療系の大学として教育・研究の充実・発展を図るとともに、医療・健康・保健面での社会貢献を積極的に推進し、地域との連携・協力を組織的に推進するため、「社会連携・協力に関する基本方針」を定めております。

先に開催された大学経営会議(26.5.14)において、「大学は、地域を指向した教育研究等を進め地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図ることが求められていることから、「社会連携・協力に関する基本方針」の中にこれらの視点を踏まえ社会の活性化に資するという役割を明記してはどうか。」とのご指摘がありました。

については、社会連携・協力に関する基本方針に新たに次の条項を加えることといたします。

「6、本学は、医療・健康・保健面において地域を指向した教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図る等、医療系の大学として社会の活性化に資する役割を担うこととする。」

2. 施行年月日

平成26年7月16日。

## 東京医療保健大学の社会連携・協力に関する基本方針

- 本学は建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」に則り、「時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える医療関係の課題に対して、新しい視点から総合的に探求し解決できる人材の育成」を教育目標としており、教育、研究とともに社会貢献を本学の重要な使命としている。
  - この教育目標及び使命に基づき、医療系の大学として教育・研究の充実・発展を図るとともに、医療・健康・保健面での社会貢献を積極的に推進し、地域との連携・協力を組織的に推進するため、「社会連携・協力に関する基本方針」を次のとおり定める。
- 1、本学の教育・研究に係る成果を基にした社会へのサービス活動及び社会貢献の一環として、地元の区等との連携・協力により医療・健康・保健をテーマとした公開講座を積極的に開催する。
  - 2、医療系の大学に学ぶ学生として、社会貢献・社会活動に関する意識の涵養を図り地域社会との交流を深めるため、医療等に関わるボランティア活動及び地域の行事等に参加して地域との交流を深める活動等への積極的な参加を推進する。
  - 3、教育・研究の充実・発展を図るため、産・学・官等との共同研究及び受託研究を積極的に推進するとともに、その成果を社会に公表する。
  - 4、本学の教育・研究の活動状況等について、ウェブサイト等による情報公開を積極的に推進するとともに、社会からの意見・要望等を真摯に受け止め適切な措置を講ずることとする。
  - 5、地域社会に開かれた大学として大学の施設の開放及び図書館利用の拡充に努める。
  - 6、本学は、医療・健康・保健面において地域を指向した教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図る等、医療系の大学として社会の活性化に資する役割を担うこととする。

附則 この基本方針は平成 23 年 12 月 7 日から施行する。

附則 この基本方針は平成 26 年 7 月 16 日から施行する。

## 公開講座実施状況(平成26年度～平成28年度)

	平成28年度			
実施日時	28.6.11(土)10:00～12:00	28.10.23(日)10:00～12:00	28.11.20(日)10:00～12:00	28.12.10(土)10:00～12:00
実施場所	こみゆにていプラザ八潮 (品川区八潮)	特別養護老人ホーム 上北沢ホーム (世田谷区上北沢)	五反田キャンパス (品川区東五反田)	国立病院機構キャンパス (目黒区東が丘)
受講料	無料	無料	無料	無料
講座の内容	「知って得する食品衛生」	「この冬気をつけたい感染症」	「逆境を乗り越える力、折れない心 (レジリエンス)をはぐくむー実践編ー」	「最期まで自分らしく生きるために」
講師	医療栄養学科講師 大道 公秀	東が丘・立川看護学部講師 松本 和史	看護学科准教授 秋山 美紀	看護学科准教授 櫻井 智穂子
参加者数	31名	10名	60名	63名
アンケート回答者数	29名 (回収率 93.5%)	10名 (回収率 100%)	60名 (回収率 100%)	59名 (回収率 93.7%)
性別	女性22名、男性7名	女性6名、男性4名	女性41名、男性18名、未記入1名	女性43名、男性14名、未記入2名
年代	70歳以上 44.8% 50～69歳 51.7% 50歳未満 3.5%	70歳以上 30.0% 50～69歳 60.0% 50歳未満 10.0%	70歳以上 23.4% 50～69歳 48.3% 50歳未満 43.3% 未記入 3.3%	70歳以上 54.2% 50～69歳 33.9% 50歳未満 11.9%
在住	品川区内 100.0%	世田谷区内 90.0% 世田谷区以外 10.0%	品川区内 85.0% 品川区以外 11.7% 未記入 3.3%	目黒区内 71.2% 目黒区以外 25.4% 東京都以外 3.4%
感想	とてもわかりやすかった 75.9% 普通 20.7% やや難解だった 3.4%	とてもわかりやすかった 90.0% 普通 10.0%	とてもわかりやすかった 86.7% 普通 11.7% やや難解だった 1.6%	とてもわかりやすかった 62.7% 普通 28.8% やや難解だった 6.8% その他 1.7%
講座を知った方法	チラシ・ポスター 57.1% 品川区HP等 37.2% その他 5.7%	チラシ・ポスター 80.0% 世田谷区報 10.0% その他 10.0%	広報しながわ 41.4% チラシ・ポスター 32.9% 品川区HP 11.4% 友人・知り合いからの誘い 2.9% その他 11.4%	めぐろ区報 44.6% チラシ・ポスター 40.0% 目黒区HP 9.2% 本学HP 3.1% 友人・知り合いからの誘い 3.1%

		平成27年度					
実施日時	27.6.6(土)10:00~12:00	27.10.18(日)10:00~12:00		27.11.14(土)10:00~12:00			
実施場所	こみゆにていプラザ八潮 (品川区八潮)	特別養護老人ホーム 上北沢ホーム (世田谷区上北沢)		五反田キャンパス (品川区東五反田)			
受講料	無料	無料		無料			
講座の内容	「スマホでできる！健康管理」	「認知症ケア 発症と進行の予防策 として家族にできること」		「逆境を乗り越える力、折れない心 を育てる—レジリエンスとは何か—」			
講師	医療情報学科講師 瀬戸 僚馬	東が丘・立川看護学部講師 岩淵 起江		看護学科准教授 秋山 美紀			
参加者数	40名	23名		80名			
アンケート回答者数	39名 (回収率 97.5%)	20名 (回収率 87.0%)		78名 (回収率 98.0%)			
性別	女性27名、男性11名、無記入1名	女性14名、男性6名		女性56名、男性22名			
年代	70歳以上 61.6% 50~69歳 35.9% 未記入 2.5%	70歳以上 30.0% 50~69歳 55.0% 50歳未満 15.0%		70歳以上 25.0% 50~69歳 47.0% 50歳未満 28.0%			
在住	品川区 100.0%	世田谷区 100.0%		品川区内 90.0% 品川区以外 4.0% 東京都以外 6.0%			
感想	とてもわかりやすかった 53.8% 普通 35.9% やや難解だった 10.3%	とてもわかりやすかった 70.0% 普通 30.0%		とてもわかりやすかった 77.0% 普通 15.0% やや難解だった 4.0% 未記入 4.0%			
講座を知った方法	チラシ・ポスター 31.6% 大学のHP等 17.5% 友人・知り合いからの誘い 12.8% 広報しながわ 8.5% その他 14.9%	その他 10.0%		本学ホームページ 2.0% 友人・知り合いからの誘い 2.0% その他 11.0%			

	平成26年度					
実施日時	26.6.7(土)10:00～12:00		26.10.19(日)10:00～12:00		26.11.8(土)10:00～12:00	
実施場所	こみゆにていプラザ八潮 (品川区八潮)		特別養護老人ホーム 上北沢ホーム (世田谷区上北沢)		五反田キャンパス (品川区東五反田)	
受講料	無料		無料		無料	
講座の内容	「アンチエイジング (シニアもヤングも今日から実践)」		「認知症の人と共に生きる社会を 目指して」 —認知症の予防から介護、地域での 支え合いまで、今、私たちにできることは—		「最期まで自分らしく生きるために」	
講師	医療栄養学科准教授 神田 裕子		看護学科教授 坂田 直美		看護学科准教授 櫻井 智穂子	
参加者数	50名		33名		98名	
アンケート回答者数	44名 (回収率 88.0%)		31名 (回収率 93.9%)		87名 (回収率 88.8%)	
性別	女性30名、男性11名、無記入3名		女性24名、男性6名、無記入1名		女性55名、男性32名	
年代	70歳以上	38.7%	70歳以上	32.3%	70歳以上	58.6%
	50～69歳	52.2%	50～69歳	58.0%	50～69歳	39.0%
	50歳未満	6.8%	49歳以下	9.7%	49歳以下	1.2%
	未記入	2.3%			未記入	1.2%
在住	品川区	93.2%	世田谷区	83.9%	品川区	96.5%
	その他の区等	6.8%	その他の区等	16.1%	その他の区等	3.5%
感想	とてもわかりやすかった	93.2%	大変わかりやすかった	64.5%	大変わかりやすかった	48.3%
	普通	6.8%	わかりやすかった	29.0%	わかりやすかった	40.2%
			普通	6.5%	普通	9.2%
					その他	2.3%
	チラシ・ポスター	31.6%	チラシ・ポスター	35.5%	チラシ・ポスター	35.5%
	大学のHP等	17.5%	大学のHP	9.7%	大学のHP	9.7%
			その他	12.9%	その他	12.9%
講座を知った方法	広報しながら	50.9%	世田谷区報	41.9%	品川区報	60.2%
	チラシ・ポスター	31.6%	チラシ・ポスター	35.5%	チラシ・ポスター	28.6%
	大学のHP等	17.5%	大学のHP	9.7%	友人・知り合いの誘い	5.1%
			その他	12.9%	その他	6.1%

大学院公開講座実施状況 看護学研究科 (平成24年度～平成26年度)

	平成26年度	
実施日時	26.11.7(金) 18:00～19:30	26.10.23(木) 18:00～19:50
実施場所	国立病院機構キャンパス	国立病院機構キャンパス
受講料	無料	無料
講座名	アメリカの自律した看護師はどのように育つか	オバマケア以降のNPの活動
講座の内容	超高齢化社会の到来に伴い医療ニーズが急速に増大する中で、看護職の専門性を強化し、その役割を最大限に発揮することが期待されている自律した看護師の育成についての講演。	今年から米国で本格的に始動したオバマケア(医療制度改革)によって、実際の医療現場はどのような変化が起きているか、またその中で「NPは何を行い、また何を期待されているのか」についての講演。
講師	Maureen, Shannon(ハワイ大学) 准教授	Garrett K. Chan(米国スタンフォード大学附属病院) 高度実践センター部長
参加者数	73名	59名
アンケート回答者数	56名	特にアンケートは実施しなかった。
講座を知った方法 (学外者のみ)	大学のホームページ 21% 大学からのチラシ 43% 友人・知人からの案内 4% その他(大学職員からの案内等) 32%	
公開講座の時間	適当 82% 長い 9% 短い 5% その他(途中から参加等) 2% 無回答 2%	
開始時間	適当 58% もっと早い時間がよい 24% もっと遅い時間がよい 15% その他( ) 3%	
公開講座の内容	すごく良かった 25% 良かった 64% 普通 7% 難しい 0% その他( ) 0% 無回答 4%	

	平成25年度			
実施日時	26. 1. 8(水) 18:00~19:30		25. 6. 10(月) 18:00~19:30	
実施場所	国立病院機構キャンパス		国立病院機構キャンパス	
受講料	1,000円		1,000円	
講座名	米国におけるNPを医師の視点から考える		「米国におけるナースプラクティショナーの過去、現在と未来の役割」	
講座の内容	米国スタンフォード大学病院の救命救急・集中治療室におけるNPの活動状況、役割、医師の視点からみたNPの現状と期待される未来についての講演。		Chan, Garrett氏の、米国におけるナースプラクティショナーの歴史的発展の経緯、実際の活動経験、未来に向けての課題等の講演。	
講師	御手洗 剛 (米国スタンフォード大学病院) 准教授		Garrett K. Chan (米国スタンフォード大学附属病院) 臨床准教授	
参加者数	98名		73名	
アンケート回答者数	49名		58名	
講座を知った方法 (学外者のみ)	大学のホームページ	11%	大学のホームページ	12%
	大学からのチラシ	47%	大学からのチラシ	19%
	友人・知人からの案内	16%	友人・知人からの案内	7%
	その他(大学職員からの案内)	26%	その他(教員等からの案内)	24%
			無回答	38%
公開講座の時間	適当	98%	適当	95%
	長い	0%	長い	0%
	短い	2%	短い	2%
	その他(途中から参加)	0%	無回答	3%
	無回答	0%		
開始時間	適当	88%	適当	78%
	もっと早い時間がよい	10%	もっと早い時間がよい	14%
	もっと遅い時間がよい	2%	もっと遅い時間がよい	3%
	その他( )	0%	無回答	5%
公開講座の内容	すごく良かった	80%	すごく良かった	47%
	良かった	20%	良かった	42%
	普通	0%	普通	5%
	難しい	0%	難しい	3%
	その他( )	0%	無回答	3%
	無回答	0%		

	平成24年度	
実施日時	24. 10. 29(月) 17:30~19:00	
実施場所	国立病院機構キャンパス	
受講料	1,000円	
講座名	「オーストラリアにおける看とり ～現状と課題～」	
講座の内容	ターミナルケアの世界的権威者であるマーガレット・オコナー氏の、海外におけるターミナルケアの現状についての講演。	
講師	マーガレット・オコナー オーストラリア、モナシュ大学医療看護科学学部 教授	
参加者数	90名	
アンケート回答者数	60名	
講座を知った方法 (学外者のみ)	大学のホームページ	0%
	大学からのチラシ	31%
	友人・知人からの案内	23%
	その他(勤務先等からの案内)	46%
公開講座の時間	適当	87%
	長い	0%
	短い	5%
	その他(途中から参加)	5%
	無回答	3%
開始時間	適当	70%
	もっと早い時間がよい	8%
	もっと遅い時間がよい	19%
	その他(土曜日)	3%
公開講座の内容	すごく良かった	15%
	良かった	52%
	普通	21%
	難しい	7%
	その他(もう少し専門的でも良い)	3%
	無回答	2%